

区報ふれあい

発行 黒石団地区 広報委員会 代表者 黒石団地区長 電話 区報は「しんみやすい 広報紙」の紙面にしつと 掲載しております。近隣 のニューズや区民の方 へのお知らせ等活発な 投稿をお待ちいたしま す。なお、投稿用紙は、公 民館に準備しております。

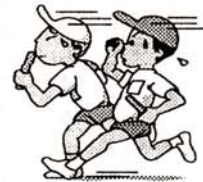
「第三十二回西合志町民体育祭」

平成十四年十月十三日 於：信愛女学院グラウンド

前日、有志の方々が設置さ れたテントに、三々五々と選 手・役員が集合、やがて選手 入場となり、大住町長大会々 長の挨拶の後、町民総踊りを 皮切りに、体育祭が始まりま した。

「ひまわりジャンプ」とネーミングされた競技では、繩 の両端を持って回す人と、輪 を潜る十五人とのタイミン グを合わせが難しく、三分間 の間に連続して成功するのは、ど の組も十回程度でした。 公開演技「ザ リフレッシ ョン」では、入場門から黒一色 のコスチュームにキラキラの 胸飾りを着けた一団数十名が グラウンドに入場してきました。「信愛女学院の生徒さんが 出ておられたバイ」と驚いて いました。近づくにつれて 「西合志の御婦人達」である ことが分かり、大笑いしまし た。それくらい若々しく見え ました。

「一等を逃した？四百M 年代別リレー」 四百M年代別リレー、スタ ート直後は、当団地がトップ を快調に走っていき、ところが、 走者が突然ストップしてしま いました。レース後、その 走者に尋ねたところ、団旗を 打ち振り、声援を送っている のが、止まれ、止まれと言っ ていると思いきや、止まったそ うで、促されて再度走り始めた 時は、他チームに越されてお り、その後の選手が懸命に前を



追いましたが、惜しくも入賞 に届きませんでした。あ のアクシデントがなかつたら一等だった？と今でも信じています。 全競技が終了し、成績発表 となりましたが、我が黒石団 地区は入場行進の人数では他 の地区を圧倒して断トツとし たが、競技成績では惜しくも 入賞を果たせませんでした。 なお、一位は御代志、二位は 東大池と若原の各区でした。 前日および当日の準備、競 技進行、片付けと選手・役員 の皆様方には大変お世話にな りありがとうございました。 今回、本体育祭に参加して感 じたことを二・三申し上げます。 ①選手、役員以外の一般応援 がもう少し欲しかった。 ②選手のゼッケン、シャツ、 鉢巻等を黒石団地と一目で 識別できるように統一したもの にすれば応援にも一段と力 が入ったのでは。 ③年代別リレーの選手集めに 各体育委員さんが大変苦労 された。次回から自薦・他薦のご協力を願います。 体育部広報委員 木原

「平成十四年度 黒石団地区 敬老会」

平成十四年九月二十九日(日) 於：黒石文化センター 敬老会が、九月二十九日に 黒石文化センター多目的ホール で、十時三十分から実施され ました。

私達高齢者の慰労として、 盛大な催しを賜り、心から厚 く御礼申し上げます。 団地在住の七十歳以上三百 八十五名中、当日は百四十二 名が出席しました。 計画・準備・実施・後整理 と、丸山区長様始め役員の方 々、婦人部・文化部・体育部 ・子供会・公設・自衛消防団 の皆様、本当にお世話になり ました。

また、来賓の町幹部・町議 等の皆様も公私共に忙しい中、御臨席いただき、重ねて 厚く御礼申し上げます。 南中学校生徒の器楽演奏、 東小学校生徒の合唱、舞踊、 剣舞、カラオケ、尺八演奏の 吟詠、手品等々盛り沢山の出 し物の披露に浴し、楽しい一 時を過ごさせて戴きました。 今後、黒石団地区発展のた め、微力ながら私達高齢者も 貢献したいと思っております ので、何なりとお申し付け下 さい。喜んで協力致します。 社会情勢も厳しく、介護問 題、医療関係と多岐に御迷惑 をかけることが多くあります が、私達も健康に注意して、お元気で過ごしたいと考えてお ります。 今後、御指導、御鞭撻の 程、お願い致します。

老人クラブ 野口 治道 敬老会当日は、早朝より自 衛消防団の方々が、トラック 二台で机・椅子・座布団等を 公民館から会場まで運搬して

「私達の健康・体力作り」

私達の愛好会は平成七年に 結成され、現在会員は男女あ わせて三十一名です。 町のご好意をうけ、団地グ ラウンドで毎週、月・水・金 の午前中、グラウンドゴルフ を楽しんでおります。

現在、九十三歳のこのかた は、近隣の大会で何回も入賞 され、また、テレビ出演もさ れており、我が愛好会のシン ボルの存在となっております。 私達は何時までも健康で、 そして夢を追いながら「楽し いグラウンドゴルフ」を続け ていきたいと思っております。 グラウンドゴルフは、ゴル フからヒントを得て考案され た、新しい試みの軽スポーツで、生涯スポーツ活動推進事 業のひとつとして開発された、誰もが気軽に楽しめる屋外 スポーツです。

①準備簡単 ②時間制限無し ③人数制限無し ④個人競技 ⑤エチケット厳守 ◆みなさんの入会をお待ちし ております。 黒石団地Gゴルフ愛好会

「楽しいよミニバレー」 「こんばんわ」元気な挨拶と共に、毎週木曜の夜八時 に集合です。

まず十分程、思い思いに ストレッチ運動で身体をほぐ し、それから基本中の基本と なるパスの練習です。 その後、ゲームに入ります。 ネットの高さ二m、コート はバトミントンダブルスのコ ート、四・五名一チームにな ってゲーム開始。

「ナイスサーブ！」「おね がい！」「OK！」得点の度 に歓声・拍手。失敗してもめ げません。「今度こそ！ソレ ー...」と。 最近、新メンバーも加わっ て一段と賑やかになり、中学 生から六十歳代まで、幅広い 年齢層で楽しんでおります。 正に、生涯スポーツです。 ポールは軟らかいので、突 き指の心配もなく、バレーポ ールは苦手？な方でも大丈夫 です。とにかく一度やってみ ませんか。木曜夜八時から、 文化センター多目的ホールで やっております。

北一 沖 公子

「第三十五回・町旗争奪 親善ソフトボール大会」

表記大会が、九月二十二日 (日)で、町中央運動公園グラ ウンドで開催されました。 我が団地チームは、最強の メンバーを揃えて、優勝の意 気込みでのぞみましたが、結 果は一勝一敗となり、入賞を 果たすことができませんでした。 しかし、今回は確かな手ご たえを感じており、来季に期 待が持てるかと確信しておりま す。 広報委員 白木 (裏面へ続く)



南中学生徒の器楽演奏



「秋季草刈作業実施」

今年度第二回目の秋季草刈作業を、十月六日早朝より行い、無事に終了出来ました事をまず報告いたします。

昨年度より、草刈後の焼却を止め、その日の内に処分場へ持込むことにより、一日で作業を終える事ができ、団員の皆様の作業軽減を図る事ができるようにしました。また、草刈依頼地に「ゴミ捨て禁止」の立看板を設置したことにより、投棄ゴミ等が減少し、作業がスムーズに行えたと思えます。

これからも、団地の皆様方の御理解・御協力の程、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、団員の皆様には、早朝より草刈作業に御協力頂きまして、誠にありがとうございました。

自衛消防団事務長 佐藤

恒例の月見会開催

私達の北一組四班は、班内の親睦を目的として、二十数年前より中秋の名月の時に、夫婦同伴で出席する「月見会」を実施しております。



男性は勤務の関係で若干遅れて参加される方もおられましたが、今年も秋の夜の一時を賑やかに過ごしました。

北一組四班 井口

公民館使用予定

月曜 休館日

① 役員会議・毎月第一火曜 午後七時半～九時半

② 公文 毎週午後三時～九時

③ 水曜 裕輝会（日舞） 毎週午後一時～四時

④ 木曜 菱の実会（日舞） 毎週午後一時～四時

⑤ 金曜 公文 毎週午後三時～九時

⑥ 土曜 ジオス子供英会話 毎週午後一時半～五時半

広報紙名前決まる

前号で当広報紙の名称を募集しましたところ、多数の応募を戴き、ありがとうございます。

広報委員会で審議いたしました。北一組佐藤光博様の「区報 ふれあい」を採用させて頂くこととし、早速、今回の三号から使わせて戴きました。

広報委員長 白木

これまでの活動状況と今後の活動予定

「これまでの活動」・「現在準備中の活動」・「今後の活動予定」を報告します。

一、「これまでの活動」

- ① 総会の開催
- ② 広報委員会の発足
- ③ 一斉美化作業の実施
- ④ 屋外消毒の実施
- ⑤ パソコンの導入
- ⑥ 公民館倉庫の建築
- ⑦ 会議用机・椅子の購入
- ⑧ 夏祭りの開催
- ⑨ カーブミラー点検整備
- ⑩ 防犯灯新設（電鉄黒石駅通り）
- ⑪ 敬老会の開催
- ⑫ 防火水槽補修（西・東）
- ⑬ 自衛消防団による草刈作業及び消火栓点検
- ⑭ 町行事への参加
 - ・親善球技大会
 - ・町民体育祭
 - ・弁天よかとこ祭り
 - ・赤十字社への協力
 - ・社会福祉協議会への協力

二、「現在準備中の活動」

- ① 中四班町有地の活用法（約二十坪）
- ② 消防機材の購入
- ③ 有線放送施設の点検
- ④ 住居案内板の記載内容チェックと西組及び全団地の設置

三、「今後の活動予定」

- ① 消防団行事
 - ・初期消火訓練
 - ・年末夜警
- ・出初式

- ② 成人式記念品贈呈
- ③ 料理講習会
- ④ 公民館調理台増設

四、その他のお知らせ
南六班の豊田様方前道路が舗装工事中で通行止めになっていきます。

★いろいろな情報・話題等ございましたら、お近くの広報委員までご一報願います。

区長 丸山

高齢者の生きがい

少子・高齢化が進んでおります。現役世代も減り続きます。

私たちの暮らし（生きがい）、経済、社会保障のあり方を根本的に見直すときがきています。

高齢者の生きがい

（9/15 毎日新聞社 説より要約）

- 1 近所の人たちとの交流
- 2 趣味やグループ活動へ参加
- 3 地域での人間関係

「生きがい」は個人によって異なるが、地域社会での結びつきは欠かせない。

そのためには、家に閉じこもるのではなく趣味やボランティア活動、なんらかの仕事を持ち続けることは不可欠、だろう。

できるだけ地域社会にかかわり、活動し続けることが、健康を支え現役世代に過大な負担をさせないことにもつながる。

（丸山）